

札幌市介護保険事業計画推進委員会（第9期）

第2回市民調査部会 議事要旨

日 時：令和7年（2025年）9月16日（火）10：00～11：30
場 所：札幌市役所本庁舎 12階1～3号会議室

I 出席者

1 委員

林委員長（部会長）、小笠原委員、近委員、高橋（一）委員、田中委員
向委員、高橋（誠）委員、大野委員、上原委員、宮木委員

2 事務局

阿部地域包括ケア推進担当部長、清水高齢福祉課長、鹿嶋介護保険課長
長田認知症支援・介護予防担当課長、織田事業指導担当課長
番場高齢福祉係長、吉田調整担当係長、中津管理係長、藤間企画調整担当係長
服部給付・認定係長、坂本認知症支援担当係長、延地域包括担当係長
菅野事業者指定担当係長、小原事業指導係長、加藤指導担当係長

II 議事次第

1 開会

2 議事

- (1) 「高齢社会に関する意識調査」の変更案について
- (2) 「要介護（支援）認定者意向調査」の変更案について

3 閉会

III 議事概要

1 開会

近委員より自己紹介、鹿嶋介護保険課長より委員の出欠状況について報告及び配付資料の確認

2 議事

- (1) 「高齢社会に関する意識調査」の変更案について

○林部会長 おはようございます。

朝早くからお集まりいただき、ありがとうございます。

これより、議事に入ります。

この市民調査部会は、第2回の今回が最後となります。

今回は、これまでの議論の経過を踏まえまして、市民対象のアンケート調査項目の部会としての最終案を決定することになります。今回は、前回の意見を踏まえましてアンケート調査項目の変更についてご確認をいただくことを主眼にしておりますけれども、初めてご出席なされた近委員、あるいは、前回、意見を言い忘れたと思うことがございましたら、今からでも間に合いますので、ご遠慮なく挙手をお願いいたします。

それでは、初めに、(1)「高齢社会に関する意識調査」の変更案について、事務局から説明をお願いいたします。

＜藤間企画調整担当係長より資料1に沿って説明＞

○林部会長 事務局から、前回の部会における意見を踏まえた高齢社会に関する意識調査の変更案について説明がございました。

内容の変更についてご確認をいただきながら、さらに何かご意見がございましたらお願いいたします。あるいは、ここは自分が意見ををしたという箇所がございましたら、この変更点について何かご意見がある方も挙手をお願いいたします。

いかがでしょうか。

○小笠原委員 小笠原です。

今、変更のご説明をしていただいた1ページ目の問1－3の選択肢で、「回答しない」を付

け加えていただいたというご説明がありまして、7 ページ目の問 1－3 についても同様の変更だということですが、1 ページ目は「回答しない」、7 ページ目は「回答したくない」と文言が違っているので、これは統一したほうがいいかなと思いました。

私としては、「回答したくない」よりも「回答しない」のほうがより回答者に負担のない選択肢だと思いますので、「回答しない」に統一をしたほうがいいのではないかと考えております。

○林部会長 いかがでしょうか。事務局で何か意図があるのでしょうか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） こちらの単純なミスでございますので、「回答しない」で統一させていただければと思います。

○林部会長 分かりました。

今回も、ほかの札幌市のアンケートを基にしていろいろ考えてくださったようですが、この4 択がここで成立すれば、今後のいろいろなアンケートがこれを基にしてこの4 択にしてくれるようになると思います。すごくありがたいと思います。

ほかに何かご意見のある方はいらっしゃいませんか。

○大野委員 札幌認知症の人と家族の会の会の大野です。

前回の高齢者支援計画2024にはなかったことで、今、札幌市がすごく一生懸命やっているチームオレンジ、それから、生活支援体制整備事業などは、私もこれらの会議に出ているのですが、すごくいい会議で、地域包括支援センターや介護予防など、各界の現場で活動している人が一生懸命やっている会議なのです。ですから、このアンケートにその辺のことの対応がなされていないのか、お聞きしたくて、今、質問しました。

実際には、前回の支援計画はなかったのですが、私は、札幌市としての新しい事業を個人的にすごく評価しているのです。もちろん、チームオレンジや生活支援体制整備事業は、札幌市の市民たちにはあまり知られていない部分があるけれども、これから底辺拡大のためにはすごく大事な事業かと思っていますので、このアンケートに載せるかどうかは別として、その辺はどうかと思って質問いたしました。

○林部会長 アンケートの項目に新しい取組がないということですが、いかがでしょうか。

○事務局（坂本認知症支援担当係長） 認知症支援担当係長の坂本です。

まず、チームオレンジについては、この委員会でもたびたび議論に上げていただいているかと思いますが、ただ、今現在、五つの区でモデル事業として実施しているので、知名度を調べるという段階にはまだないかと思いますが、今後の展開次第でチームオレンジにどのような活動の成果があるかという指標は検討していきたいと思っています。

今回の調査については、チームオレンジはモデル実施という段階ですから、知名度や活用状況などを調べるには適切ではないと思っております。

○事務局（延地域包括担当係長） 生活支援体制整備事業の担当をしております地域包括担当係長の延と申します。

追加で申し上げます。

今、ご意見をいただきました生活支援体制整備事業の協議体は、いつも大野委員にもご参加いただいているところでして、確かに、今回入っていないので、追加させていただければと思います。知られていない事業ですので、認知度もどれぐらいか、こちらでも把握できればと思います。

○林部会長 ということは、事務局としては、チームオレンジについては今後の課題とし、もう一つの生活支援体制整備事業はどこかに追加するということでしょうか。

○事務局（延地域包括担当係長） 生活支援体制整備事業については、地域包括支援センターや介護予防センターの並びでいいかと思っております。

○林部会長 そこに差し込むということによろしいですか。

ほかの委員はどうでしょうか。

前回、アンケートに時間がかかる、質問が多過ぎるという意見が出ていたわけですが、1 項目入れることは全く構わないということによろしいでしょうか。

○大野委員 どのような形で質問の中に入れるかは別として、やはり、こういう事業を札幌市が新しくやっているのですよと一般市民に知らせることにすごく意味があると思いますので、ご検討いただければ幸いと思って発言いたしました。

○林部会長 今回が最終案の提出になりますので、委員会としても異議がなければ、その項目を一つ足すということによろしいでしょうか。

チームオレンジに関しては、将来的にということですが、このアンケートとは関係なく、そのモデル事業の評価は一体どのようにやるのか、もし知ることができたら教えてください。

○事務局（坂本認知症支援担当係長） チームオレンジは、今、モデル実施で行ってまして、その評価については、参加していただいた方や関わっていただいた方にアンケート調査やインタビュー調査を行っておりまして、独自ではなく、札幌医科大学に委託して効果検証を行っていただいております。そちらの効果検証を基に、どういった効果があったのかということ幅広く取りまとめているところでして、その検証結果を含めていち早く10区展開に向けて調整を図っていきたいということで、今、動いているという段階になります。

○林部会長 情報をありがとうございます。すごくほっとするお答えだったと思います。

ほかに、どなたか、変更点、あるいは、新たにここをというご意見がございましたら、よろしく願いいたします。

○宮木委員 市民委員の宮木でございます。

1 ページ目の問2－6に最期を迎えたい場所という設問があるのですが、これは、私ごとでございますけれども、なかなか言えないというか、やはり自宅で最期を迎えたいという方が圧倒的に多いと思うのですが、環境や家族構成も含めてやむを得ず病院や施設などに行かざるを得ないという現況から見ますと、この設問は、絶対的にこうですとは、私としても言えないかなと思いながら見せていただいています。これは、最初から設問の項目の中に入っているものだったのでしょうか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） こちらの設問については、以前から継続してお聞きしている質問になっておりまして、事務局としては、今回に関してもこのまま継続してお聞きして、経年の推移なども見せていただければと思っております。

○林部会長 この質問は、1990年代から国が国民に対しても問うている中身になります。

ただ、最近は、国のほうも変わっておりまして、どこを死に場所にしたいですかという質問については、がんの場合は、心疾患の場合は、あるいは、認知症の場合はということで、病ごとに聞いています。少なくとも、国のアンケートに対しての回答は、病によって全く違うということ、あるいは、医療関係者か、一般の方かによっても全く違うということが分かっております。

ただ、ここでその形で聞くとなると、多くの項目を設定しなければなりませんので、国も、基本の一つは、このように単純に、あなたはどこで最期ということになっておりますので、これはこのままでよいのかなとは思います。

いかがでしょうか。

○田中委員 今の人生会議の話は、市民、国民にも浸透しつつあって、私は北海道看護協会ですが、長く病院に勤務してきて、以前は聞くことのタブー感が非常にありましたが、昨今は、例えば、心臓の病気、がん、難病など、いろいろな方たちが病院にいられて、むしろ、どのように考えているのですかと病院のほうから聞くことや、ご家族と一緒に話をすることが割とコンスタントに行いつつあるところまで来たと思います。

その上で、例えば、何も考えていない、近くになったときにどういサービスを受けたいかが全く分からないという状況で混乱される方が、少しずついろいろな準備を整えたり、こういうところに頼るといいのだなというような話があって、今は、入院された方たちを含め、いろいろな段階で割と自然にお話を聞かせていただいて、こんなことがあるのだねということに死に直面するずっと前からイメージをしながら、自分の生き方というか、生活を考えるようになってきたので、こういうところは、本当はどんどん進めていけるといいのかなと思います。

私も夫が2年半前に自宅で亡くなりましたけれども、やはり、どうしたいのかという話を普段からしていることで、だんだん状態が悪くなったときに苦しくて聞けないということがなくなって、そのように救われていくという市民も多いのではないかと考えております。

○林部会長 私も全く同意いたします。

私は、教育の場にいるのですが、実は、学生に、ワークとして人生会議、私の場合は、デスカフェというものを実施しております。多くの方は、デスなんてとんでもない単語

だと思うのですけれども、若いうちから死について備えておくことは、とても必要な死生学なのです。

これは高齢者の方についての意識調査ですから、何となくひどい言い方で、年齢的に死に近い人にこのようなことを聞くのはもちろん失礼だと思うのですけれども、実を言うと、このアンケートは、10年後、20年後にもやる可能性があると考えますと、この質問は絶対に必要なものかと思います。

よろしいでしょうか。

○宮木委員 はい。

○林部会長 ほかに、どなたかご意見はございませんか。

それでは、突然振って申し訳ないのですが、近委員はいかがでしょうか。もしかしら資料は手元にあったかもしれないですが、前回ご欠席だったので、何かお気づきの点がございましたらお願いいたします。

○近委員 前回の質問や、ほかの回の資料を見ていたのですけれども、札幌市全体を対象にインターネット経由などで聞くのですか。そこが分からないので、教えてください。

○事務局（藤間企画調整担当係長） こちらの調査は、札幌市内の40歳以上の方を無作為抽出いたしましたして、郵送するものになります。

○近委員 先ほどのACPは、医師会でも進めていまして、いろいろ対策しています。私はまだ50代で、確かに、自分ではなかなか考えない内容であるのに、逆に、患者さんにはこういうことを考えてくださいと言っているのですけれども、大変大事ななことかと思います。必要な質問かなという感じがしました。

○林部会長 ほかにどなたか何かございませんか。

○小笠原委員 前回、気づけばよかったことかもしれないのですけれども、もう一度、全体を見直していて気になったことが3点ありましたので、申し上げていきたいと思います。

4ページ目の真ん中の問6－8のあなたがお住まいの地区を担当する地域包括支援センターはどこですかという質問ですけれども、問1－2に、あなたのお住まいの区を教えてくださいという問いがあって、さらに、ここで地域包括支援センターの該当するエリアを聞いているのですが、これは、お住まいの区にさらに一歩進めてこれを質問する目的があるのかなと思ったので、これを教えていただきたいと思います。

2点目は、その下の問7－5の身寄りについてで、入所・転所に際して身元を保証してくれる方や亡くなった後の様々な手続を行ってくれる方はどなたですかに対して、選択肢が「配偶者」「同居の子ども」とあるのですけれども、一つ上までの設問と比較すると、「近隣の人」「友人」が省かれているのです。きっと、その設問の内容的に、近隣の人や友人はあまり関わってこなさそうな質問だからということなのだと思いますが、ただ、入院や介護施設の入所・転居に関しての身元保証などは、場合によっては、近隣の人や友人ということもあり得るかなと思うのです。亡くなった後の様々な手続は難しいかと思いますが、近隣の人、友人が全く出てこない設問ではなさそうな気もするので、それまでの設問、それから、その下の設問で、いずれも、「近隣の人」「友人」と入っているのですが、そこと平仄を合わせて入れてもいいのではないかと思います。

最後が一番下の問7－7の孤独の状況で、設問は、あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますかに対して、選択肢の1番目が「決してない」ですけれども、この表現に若干違和感があって、「決してない」というと、何か決して孤独を感じないぞという意味みたいなものが背景にある単語に感じるので、「全くない」などのほうがより自然な気がしました。細かい話ですが、変更してはどうかと思いました。

○事務局（延地域包括担当係長） 1点目の地域包括支援センターのエリアの件について、地域包括担当係長の延から回答させていただきます。

問6－8につきましては、地域包括支援センターの評価指標が国で出されていて、地域包括支援センターのエリアごとにしっかり地区分析をすることとなっております。地域包括支援センターにしっかり地域のデータを提供する予定がございますので、この点については、削らずに残しているところでございます。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 続きまして、2点目の身寄りに関してのご質問ですけれども、「近隣の人」「友人」を入れてもいいのではないかとということで、当初、事務局としましては、基本的には登場する機会はないであろうということで選択肢に含めていな

かったのですが、確かに、ご意見を踏まえまして、追加の方向で検討させていただきたいと思います。

3点目、孤独の状況につきましては、別途、国でやっている調査と同じ項目となっております。札幌市と国の状況の比較などができればと思って設定を追加したいということで載せているものでございます。ですから、できるだけ比較ができるように選択肢はこのまま国とそろえた状態で行わせていただきたいと思います。と考えております。

○林部会長 最初の質問に関しては、区を聞くことと、地域包括支援センターがどこかを聞くことは、同じになってしまうのではないかと質問だったのですが、実は、一つの区に地域包括支援センターが幾つかありまして、自分に何かあったときに、そのうちのどこに相談に行くかについては、ほとんどの市民の人が自覚していないと思うのです。何区に住んでいるかは分かるけれども、自分が相談に行く地域包括支援センターがどこかは分かっていない、でも、このアンケートをするときには、それが表形式になっているものですから、選べると思うのです。だから、少なくとも、このアンケートをする人は、認識することができるいいチャンスかなと思ったりいたします。

そういう意味では、全く別のことを聞いているので、やはりこれはこのままでいいと思います。

二つ目ですが、前回もこの身寄りという単語に引っかかって、身寄りという単語は死語のようなものではないかという話になったのですが、設問の中には、身寄りは誰かということはないので、このままでいいのではないかという話になっていたのです。

こういう質問のときにいつも出てくるのが、一つの質問で二つの違うことを聞いてはいけないということで、これはアンケートの鉄則なのです。そうすると、今、小笠原委員がおっしゃってくれたように、入院や介護の保証人、それから、亡くなった後の手続きをお願いする人というのは、やはり選択肢として別のもののような気がするのです。一方には、上と同じように、近所の人や友人も入ってくるかもしれないけれども、一方には、なかなかそういう人は入ってきませんという質問が、ここでは一緒になされてしまっているからこういうことになるのだと思うのです。

それで、事務局の回答では、合わせようと思いますというようなことをおっしゃっていたのですが、もしかしたら、ここは、二つの質問に分けたほうがよいのかなと感じます。

そして、最後の孤独に関しては、国と同じ選択肢ということですので、これは変えることをせずにということで構いませんでしょうか。

○小笠原委員 はい。

○林部会長 身寄りの質問に関して、選択肢がこれで十分なのか、上の質問と合わせなくてよいのかということに関して、札幌市は配慮するという話だったのですが、個人的には、二つのことを一つの質問で聞いてしまうからこういうことになる、でも、分けるとまた質問が増えてしまうので、どうしようかという感じですが、事務局ではいかがでしょうか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 身寄りについての設問を分けたほうがいいのではないかと考えてはいますが、こちらについては、検討させていただいて、後日、第4回の委員会のときに、部会長とご相談もさせていただきながらご連絡させていただければと思います。

○林部会長 もし、これが身寄りを聞いているものではないということになったならば、これらのことについて、誰に頼れますかということになります。成年後見を任意でもう既に選んでいる人もいるかもしれませんね。身寄りではないからここには選択肢として入ってこないわけですが、もし分けるということになったら、法律ができて10年以上たっておりますので、そういった選択肢もここには登場するべきではないかという気がいたします。

判断をしていただいて、委員会のときに改めて提出していただくということに合意することによっていいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○林部会長 ほかに何かご意見はございませんか。

○高橋（一）委員 札幌歯科医師会の高橋（一）です。

本当にささいなことですけれども、5 ページ目の認知症に関する質問の中で、質問内容は問題ないと思うのですが、問 8－3 の認知症の基本的な理解という項目がありまして、これは基本的に認知症を知っているかどうかという話ですから、これが 1 番目に来たほうが自然な感じがするのです。特にこの順番だからおかしいということではないのですが、最初に認知症のことを聞いて、それから、その内容というほうが自然な流れのような感じがしました。

○林部会長 本当にそのとおりのような気がいたします。なぜこの質問の順番になっていたのでしょうか。

○事務局（長田認知症支援・介護予防担当課長） 認知症支援・介護予防担当課長の長田です。

まず、認知症の基本的な理解というところで、こういう内容を押さえてもらうという意味を込めてこの順番にしているのですけれども、今のご意見を踏まえて、一度、順番についても自然な流れになるか、検討させていただきたいと思います。

○林部会長 ここも事務局の検討ということで異議がございませんでしょうか。お任せをするということでよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○林部会長 前回、気づかなかった点がたくさんございますが、ほかに何かございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

(2) 「要介護（支援）認定者意向調査」の変更案について

○林部会長 もしないようでしたら次に行かせていただきますが、後で気づいたところがございますしたら、ページを戻って質問をいただきたいと思います。

＜藤間企画調整担当係長より資料 2 に沿って説明＞

それでは、次に、(2)「要介護（支援）認定者意向調査の変更案」について、事務局から説明をお願いいたします。

○林部会長 事務局から、前回の部会における意見を踏まえた要介護（支援）者認定意向調査の変更案について説明がございました。

前回、こちらの質問の時間がとても少なかったため、あまり質問が出なかったまま終わってしまったのですけれども、この変更点に関して、あるいは、改めて何かご意見をお持ちの方は挙手をお願いいたします。

まずは、この 2 点の質問をした方はいかがでしょうか。変更点の確認をしていただければと思います。

前は、アンケートごとに番号が振ってあったので、皆さん、資料を探すのに時間がかかりましたが、今回は全て通し番号になっております。

11 ページ目以降の中身に関して何か気づいたことがある方はいらっしゃいませんか。

○小笠原委員 また性別の話ですけれども、15 ページ目の問 6－3 の介護者の性別を教えてくださいのところは、「男性」「女性」「その他」になっていて、さっき、あなたの性別はのところは、「回答しない」が入っていたのですけれども、ここは「回答しない」という選択肢は入れないということでしょうか。これはあなたではないからということもあるので、どういう扱いがいいのかが難しいとは私も思うのですが、ここにも「回答しない」があってもいいのかもしれないと思ったので、ご意見させていただきたいと思います。

○事務局（藤間企画調整担当係長） こちらについては、国のオプション項目なのですが、確かに、ほかの質問との整合性もございますので、「回答しない」を追加する方向で検討させていただきたいと思います。

○林部会長 ほかにいかがでしょうか。

また振って申し訳ないですが、近委員、いかがでしょうか。先ほどのような質問はこちらのほうにはございませんか。

○近委員 資料 2 の質問は、重複がなくていいなと感じております。前半の項目は重なっている部分が物すごく多いと感じていまして、例えば、統計を取るときに、転びやすい人は階段が登りづらいということは当たり前ですから、どっちかだけいいような質問が結構重複しているように感じたのです。多分、国がやっている質問をそのまま書いているのだと思うの

ですけれども、特に身体あたりはそういう質問が多くて、今回は時間がないですし、聞きたい気持ちはよく分かるのですけれども、省ける質問はあるのかなと感じます。

この資料2のほうは、比較的重なっている部分がなくていいのかなと思いました。

○林部会長 医療の専門職として、この質問を重ねるのはおかしいという個所を指摘していただけるとすごくありがたいです。

○近委員 資料2は特にないのですけれども、資料1に戻って、5の心身の状況についてです。

例えば、階段、歩行、立ち上がりとたくさんあるのですけれども、多分、これはほとんど1個の質問でいいのかなと思います。というのは、身体を評価するのは、SF-36やEQ-5Dという指標がありまして、その項目だけ聞けばもう十分というものがありまして、一々全部を聞かなくてもいいということがあるのです。これは、恐らく、国の質問と同じものを出しているの、どうしてもたくさん入ってしまっていると思うのですけれども、そういうことで切れるかなというものが資料2にはありません。

例えば、歩行が15分続けられないなら階段は上がれないと思います。ただ、逆に、例えば、脳梗塞で麻痺の人の評価がされていない、パーキンソンで手を握ることができない人、目が見えない人の評価もないということがいろいろあって、気にはなるのですけれども、言わないでいたのです。その辺の心身の評価というのは、もう少しまとめられるのかなという感じはしました。

まとめることによって、多分、質問は少なくとも、統計解析をすると一緒に動いてしまうので、要らない質問が出てくるとのことだと思います。多分、まとめれば出てしまうのかなと思います。

○林部会長 これは、質問も答えも国の必須の質問になっております。

○近委員 必須であればしょうがないですね。

○林部会長 でも、すごくよい助言になるのではないかと思います。札幌市が新たに同じようなものをオリジナルでやるときには、同じことを聞いているということがきつと分かると思います。

ほかに皆さんの所属する領域、あるいは、専門の立場から、今回は直せないにしても、ここはと思うものを、今、指摘していただけると、次のアンケートを取るとき、別のアンケートを取るときに非常に有益なものになると思います。

何かございませんか。

○大野委員 私も、一応、家で見えてきているのですけれども、改めて見ますと、地域包括支援センターや介護予防センターの認知度とありますね。やはり、私としては、先ほども言ったとおり、チームオレンジや生活支援体制整備事業などというのは、札幌市としての目玉事業だと思っているので、こういう新しい事業に対しても、この項目に載せるべきだと思うのです。ですから、例えば、チームオレンジを知っていますかと聞いても、当然、知らない人が多いと思います。それから、生活支援体制整備事業もほとんど知らないと思います。それに対して、実際に冊子をつくる際には、生活支援体制整備事業はこういうことなのです、チームオレンジは、実際に認知症基本法にあるように、共生社会の実現を云々ということで、やはり、オレンジサポーターが実際に地域に関わって活躍していくのですということで説明する機会になると思うのです。

介護予防センターと同じ列に、チームオレンジを知っていますかななどと載せることはいかがでしょうか。

○事務局（長田認知症支援・介護予防担当課長） 確かに、先ほどもご意見をいただいたように、生活支援体制整備事業については、多分、認知度は低いだろうというところはあるのですけれども、項目を入れるということで検討したいと思います。

チームオレンジについても、これから重要な施策になると我々も思っていますが、まだモデルで実施している事業ですので、今回、事業として認知度を聞くために項目に入れることは考えていないところです。

ただ、チームオレンジの取組を進めることで、認知症に関することで、記載しているような認知症の基本的な理解が深まっていく、偏見が少なくなっていく、そういったところの項目の値が変わってくると感じているところです。

○林部会長 納得していただくということで、申し訳ございません。

こういうアンケートを取るときによく委員会で出るのが、専門用語が多過ぎて一般の人が分からないという意見です。初めてこういうアンケートをするときには、欄外に文言の説明を少し入れておけば、認識を高めることができるのではないかという話になるのです。

でも、これのように、もう何度目かのアンケートなものですから、いきなり、例えば、そういう説明や別刷りのものをつけてしまうと認知度をしっかりと見られないということもございまして、なかなか新たなものを差し込むのは難しいのかなと思います。

○大野委員 私が言いたいのは、従来はなかったけれども、札幌市は市民のためにこういう事業をこれから始めようとしているというアピールの場でもあると思うのです。ですから、先ほども言ったとおり、チームオレンジや生活支援体制整備事業は、ほとんどの人が知らないと思いますけれども、こういうことをやり始めているということを知るだけでもすごくいいと思うのです。項目にあった場合には、そんなものは知らなかったということになるけれども、その中身を見ると、こういうことも札幌市が進めているのだと分かりますよね。そういうことで意味があるのかなと思っていますので、しつこいようではありますが、発言しています。

○林部会長 私たちは、3年間、委員をやることになりますので、このアンケートの結果を受けたり、モデル事業がこれから本格化するところにも立ち会えると思うのです。その結果次の委員会では、アンケートに入れるべき追加項目も明らかになると思います。

この議事録はそのまま残りますので、すごく貴重なご意見だと思います。

ほかに、どなたかいらっしゃいませんか。

○近委員 昨日、気づいていたことが一つあって、資料2の15ページの間6-6の家族介護者が負担に感じることに、病院に行っていない方もいるかもしれないですけども、例えば、クリニック、診療所など、病院への通院は入らないのかなと思ったのです。

それと、間6-9の家族介護者の相談先にも、我々診療所やクリニックは入らないのかなと思いました。結構、いろいろ聞かれるものですから、多分、書いたら丸をつける方は多いのではないかと思います。入れてもいいのではないかと思います。

多分、病院に連れていかなくていいということはないと思うのですけれども、申し訳ないですが、クリニックはなかなか融通がつかないものですから、この時間に来てくださいということが結構あると思いますし、また、土曜日しか行けないという家族も結構いらっしゃるのです。私は土曜日もやっているのですけれども、負担になっているのではないかと考えております。

そして、私たちは結構相談されますので、相談先に病院やクリニックと入れると、意外に丸をつける方がいらっしゃるのではないかと思います。

すみません、下のほうは、かかりつけ医とありましたね。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 負担に感じるについて、通院に関して入れてはどうかということだったのですが、追加する方向で検討させていただきたいと思います。

○林部会長 それでは、間6-6は追加ということで、間6-9は、かかりつけ医が入っているので、このままということですね。

メディカルソーシャルワーカーは、今、どこの病院もいらっしゃいますし、医師に直接相談はできませんよね。医療機関と書いたらいいのでしょうか。

○近委員 今話した内容は、受診に関してはかかりつけでいいのかもしれないですが、いろいろな病院に行っている方がいらっしゃって、そこは難しいので、医療機関だけでもいいのかもしれません。

○林部会長 国は、かかりつけ医と言っていますが、一般の人でかかりつけ医がいますという人は、日本の場合、あまりいらっしゃらないですね。だから、確かに、医療機関だけのほうがよいような気がします。

選択肢にこんなものも入れるべきである、これは要らないなど、この表現はおかしいというところまで、目配りをお願いするのが大変申し訳ないのですけれども、いかがでしょうか。

選択肢となると、よく分かりませんが、国も、例えば、職業を聞かるときは、フルタイムか、パートタイムかという選択肢なのです。正規か、非正規かではなくて、こういう聞き方をするのですね。

○小笠原委員 すごく細かいところで恐縮ですが、15ページ目の間6-2の主介護してく

れる方はどなたですかの選択肢で、「子（子の配偶者を含む）」と「孫（孫の配偶者を含む）」とあるのですけれども、「兄弟・姉妹」には配偶者を含むがなくて、兄弟・姉妹の配偶者も場合によってはあり得るのかなと思ったりするので、ここは配偶者を含むを載せていないのはどうしてなのかということが気になりました。

それから、アンケートの設問項目とは関係ないのですけれども、先ほど、大野委員のご質問とそのやり取りを聞いていて、このアンケート用紙を配付するときに、何か同封するようなものがあるのかなと思いました。札幌市でも、介護に関するものでもう少し認知度を高めたい事業がいろいろあると思うのです。せっかく郵便でアンケート票を送るのであれば、何かチラシみたいなものも同封して、ついでに広報もできればいいのかもしれないと思ったので、それも意見として申し上げます。

○林部会長 まず、問6－2の「兄弟・姉妹」に配偶者の選択肢はなぜないのでしょうか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 介護者の主な項目は、国のオプション項目となっておりまして、原則、オプション項目については、選択肢、設問内容は、そのまま採用させていただくというところでしたので、入れておりません。

○林部会長 次に、アンケートを郵送するときに何か札幌市からお送りするものはございませんか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） チラシなどの同封については、作業や印刷コストなどもありますので、現時点では特に予定はしておりませんでした。各担当から何かあれば検討したいとは考えておりますけれども、現時点では考えておりません。

○林部会長 経年を見なければいけないものですから、今回だけ何かチラシ類を入れてしまうと負担がかかってしまうので、まずいかなと思います。

そのアンケートで全く聞いていないこと、例えば、チームオレンジに関しては、チラシを入れてもアンケートに影響を与えないので、大丈夫だと思うのですが、認知症とはこういうものです、介護保険とはこういうものですよというものをここにプラスで入れてしまうと、それを読んだ後にアンケートに答えるということになってしまっていて、そうすると、認知を過去のものとは比べられなくなってしまうという気がいたします。

ほかにはいかがでしょうか。

○上原委員 15ページ目の問6－5ですけれども、下のほうを見ていると「わからない」という言葉がたくさんあったのですが、家族の負担感はどうですかといったときにも「わからない」が選択肢にあるのかなと思ったので、一つ質問です。

それから、今の表題から外れるのですけれども、先般の広報さっぽろにほかのアンケートについて出ていたのですが、こちらのアンケート用紙を送る前にも対象者の方にはがきで一回通知して認知を高めた上で送るのですか。

○林部会長 まずは、負担感を聞くときに「わからない」という選択肢もあっていいのではないかという点に関してはいかがでしょうか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 家族介護者につきましては、家族介護者ご本人、もしくは、家族介護者ご本人にご確認をいただきながら回答していただくこととなりますので、基本的には分からないということは想定しておりません。こちらは、今の計画の中で評価指標を確認する項目にもなっておりますので、基本的にはこのままの形で継続させていただきたいところでございます。

もう一つが事前にはがきで通知をするのかでございまして、事前にはがきの通知というものは考えておりません。といいますのも、やはりある一定の基準日の時点で抽出をして発送いたしますので、その期間は、かなりタイトなスケジュールで動くのです。あまり期間が空き過ぎますと、転居されて札幌市外に行ってしまうわれたり、あとは、何か状況が変わったり、場合によってはお亡くなりになっていることも前回はございました。日数が開いてしまうことによって、そういうことが出てしまうので、できるだけ早く郵送で調査票をお送りさせていただくことを考えると、はがきで事前に通知ということは難しいのかなと考えております。

○林部会長 調査ではよくそういうことするのですが、このままでは返送率がなかなか低いということで、もう一回はがきを出すということもないですか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 現時点では考えておりません。

○林部会長 一回だけということですね、分かりました。

よろしいでしょうか。

○近委員 問6-6を入れる場所が違うかなと考えたのですけれども、通院に関しては、下に主な介護者が行っている介護が出ていて、それで、具体的にこの中で負担感がどうかというほうがいいのかと思いました。だから、質問が追加になってしまうのですけれども、上の質問は、負担に感じることはどんなことですかと書いて大きなことを聞いて、次に、具体的に行っている介護のことを書いてあって、その負担に関してそこに通院が入っているから、その中で、負担に感じることはありますかでいいのかと思いました。

問6-6に通院と書くのは違うと思いましたので、訂正いたします。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 確認ですが、今のご意見としては、問6-6と問6-7の順番を入れ替えるというのではないかとということでしょうか。

○近委員 どちらかという上は、介護の時間や経済的負担、離れて暮らしているなど、大まかな話ですけれども、下の行っている介護に関して、食事の介助、入浴、どれが負担かのほうが本来聞かなければいけない質問なのかなと思ったのです。そこに、移動、外出の付添い、送迎と書いてあるので、それを聞けばいいだけだったのかなということです。上と下のバランスも必要ですから、どうなのかなとも思いますが、例えば、問6-7-1と半分にして、その中で負担と感じているものはありますかのほうがよかったのかなと思いました。

○事務局（藤間企画調整担当係長） そうしましたら、先ほど、問6-6に通院について追加したらいいのではないかとということころは、追加はしない方向にさせていただいて、その代わり、問6-7の主な介護者が行っている介護等について、その負担感を聞いてみるのもいいのではないかとということでございますか。

○近委員 そうですね。特に、問6-7の質問は、ほとんど丸をつける方と、1個ぐらいしかつけない方に分かれると思うのです。その中でたくさんつけていて、全部につける人もいるかもしれませんが、考えてみると、実は、そこはすごく重要なのかなと思ったのです。どれだけつけて、どれを負担に考えているのかということが実はすごく重要だったのかなと、改めて読んでみて思いました。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 分かりました。

検討させていただきたいと思います。

○林部会長 この点もすぐにこうできますということがなかなか難しいと思いますので、委員会まで案を待つということでもよろしいでしょうか。

○近委員 恐らく、入浴などは大変だろうと思いますし、皆さんは分かっているかもしれないけれども、それを分らないと、多分、必要な介護が分らないのかなと思ったのです。ただ、どこに介入したらいいのかということは、どちらかという、皆さんは分かっている感じなのではないでしょうか。入れたほうがいいのかと僕は思いましたけれども、要らなかつたら入れなくてもいいです。

○林部会長 いきなりで申し訳ないのですけれども、看護の立場から考えるといかがでしょうか。この設問の順番を変えたほうが分かりやすいですか。

○田中委員 実は、ご自身の介護の状況というか、介護者の介護の状況で詳しく分かっているところと、イメージでこれとこれと分かる人もいれば、それほど介護度が高くないため関わってなくて、サービス自体も全くご存じないため、何を助けてもらった方がいいのかというところがあると思うので、難しいなと思って聞いていました。対象となっている方の状況に差があるのではないかと思います。

○林部会長 そうすると、先ほど出た意見のように、ここも「わからない」という選択肢もあってもいいかもしれませんね。

○田中委員 ケアマネジャーや病院の立場で入ったときも、意外と、分からないことが分からないという方がいて、だから、相談もできないという人も多くいるのは現実かなと思いました。

○林部会長 そういう方が答えるときに、分からなかったり、迷ったりする受け手になる選択肢というものが「わからない」ですが、でも、ここにも「わからない」はありますよね。

すごく難しいですが、次までに、そこも含めて事務局に検討していただくということで構いませんか。

○田中委員 15ページの間6-1で、まず、家族介護の頻度を聞くのですけれども、このと

きに、家族で介護していない方ももちろんいるので、「ない」という選択があるのですが、家族介護がないときに、主な介護者などは答えられるかもしれませんが、先ほども出た負担に感じる事など、以下の設問が回答不要なのかなと思ったのです。もしくは、答えられないというか、除外項目があってもいいのかなと思いました。

○林部会長 実際に介護していないからよく分かっていないのですが、この「週に1日より少ない」から「ほぼ毎日ある」「週に3～4日ある」の選択肢はどうでしょうか。

○田中委員 このイメージは、どのぐらいなど、多分、介護されている方にとってはあると思います。1日、2日という細かい区切りにはならないかもしれないけれども、多分、この辺は、同居していない方でも、毎日やっている、週に何日かは行っていますなどはあると思うのです。実際、家族介護を必要としていない状況でも、例えば、既にサービスがしっかり入っていて必要のない方もいると思うので、そうなったときの負担などを答えられないのではないかと思います。やっていない、必要とされていないので、負担ではないというよりも、「わからない」という項目が出てくるのかなと思いました。

○林部会長 事務局で何かございませんか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 結構、ほかの複数の項目にも関わるお話でございますので、後日、検討させていただければと思います。

○林部会長 後日、検討することがどんどん増えてしまって申し訳ないです。しかも、ほかの項目に関わるものが大量に出てきて、委員会に出す部会の提案が、今、見ているものとは随分違う箇所が出てくる可能性もありますけれども、いかがでしょうか。

○高橋（一）委員 14ページの問5－4の保険料に関することですが、もし文言を変えられるのであれば、「（累進性を強める）」「（累進性を弱める）」はないほうが回答する人にとっては分かりやすいと思うのです。あえて、ここで括弧の部分の説明する意味はないと思うので、なくしたほうがいいのかないかなという感じがしました。

問5－4の選択肢の中に、「所得の低い人の負担を減らす（累進性を強める）べきである」と括弧でと注釈が書いてありますけれども、この括弧の部分が必要かなと思ったのです。

○林部会長 「（累進性を強める）」はなくてもいいのではないかというご意見ですが、いかがでしょうか。

○事務局（鹿嶋介護保険課長） この「（累進性を強める）」は、例えば、段階を増やして所得の高い人により負担をしていただくというようなことで括弧をつけているという趣旨でございます。より分かりやすいようにということで入れています。

○林部会長 かえって分かりにくくなるというご意見です。

札幌市の目的としては、むしろ行政的に累進性を強めてほしい、または、弱めてほしいのかを聞きたいのですよね。でも、それは、一般の人は分からないので、このように文言で説明しているわけですが、逆に、この説明を読んだ後で、括弧で「（累進性を強める）」と入ってくると、これは何だろうと、同じことを聞かれたのが分からなくなってしまうかもしれないです。

○事務局（鹿嶋介護保険課長） 表現につきましては、これを外すか、もしくは、分かりやすいように文言の解説を入れるか、どちらか検討したいと思います。

○林部会長 累進性を問うことができるもっと簡単な説明は、この文言では違うのかもしれませんが、この説明では、累進性を強めるか、弱めるかを聞いた答えが得られる設問ではなくなってしまうかもしれないですね。

ここも検討の箇所ということで、よろしく願いいたします。

そうこうしているうちに時間がなくなってまいりました。探し始めると尽きない感じが、ほかにどなたかがでしょうか。

○大野委員 アンケート調査をするわけですよね。この委員会としての今後のスケジュールはどのようになるでしょうか。

○事務局（藤間企画調整担当係長） この後の流れでご説明を予定していたところではあったのですが、今後の流れとしましては、今回いただいたご意見で、変更が必要かどうかを検討する項目が幾つかございましたので、その辺を検討して、部会長ともご相談しながら準備をさせていただいて、次回、10月22日に第4回の全体の推進委員会がございますので、最終案をそちらで報告をさせていただきまして、委員会全体で確認をさせていただいて、

調査実施へ向けて進めていくという流れとなっております。

実施につきましては、恐らく、11月中旬から下旬になろうかと思っているのですが、最終的には、年度内に報告の取りまとめまで行いまして、令和8年度の最初の委員会でご報告をさせていただければと考えております。

○林部会長 そうしましたら、まだ少し時間がございますので、ほかに何か、ご意見、あるいは、ご質問でも全く構わないと思います。いかがでしょうか。

○向委員 札幌市民生委員児童委員協議会の向でございます。

ほんのささいなことですが、14ページ目の設問のナンバーです。

問5-1、問5-2、問5-3、問5-4、問5-4と続いていますので、これを順番に直してほしいです。というのは、アンケートを受けた方は、番号が続いていると項目が違っているので、分からないのではないかと思います。問5-4、問5-5、問5-6というふうにちゃんと番号を通していただきたいということが一つです。

それと、15ページ目の問6-9ですが、この選択肢の中に、「市の窓口（区役所・まちづくりセンターなど）」と載っているのですが、一般の方のまちづくりセンターの認知度、知っているか、知らないか、その度合いというのはどんなものかということが一つあります。

それと、その下の「家族会など」は、具体的に何の家族会でしょうかということが一つあります。

それと、全体的に、「地域包括支援センター」「介護予防センター」という名前が載っていますので、むしろ、私ども民生委員からすると、ここに「民生委員児童委員」という名前を入れていただいたほうが、地域に必ずいらっしゃいますので、相談の窓口的には広がるのではないかと思います。ご検討をいただければと思っています。

○林部会長 家族会というのは、結構いろいろな種類があるということ、民生委員児童委員も選択肢として入れてほしいということですね、分かりました。

それもまた事務局で検討項目に入れていただければと思います。よろしくお願いいたします。

ほかに何かございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○林部会長 もしないようでしたら、これを持ちまして、部会における検討を終了させていただきたいと思います。

皆様からは、忌憚のないご意見をいただきました。本当にありがとうございます。

本日の意見と調査項目に変更が必要だと考えられる点の調整を事務局と私でやらせていただきまして、次回の委員会に提案をさせていただきます。

そして、誠に申し訳ないのですが、提案されたものは皆さんの総意とさせていただきますので、どうかご了承をお願いいたします。

今後の予定について、事務局から何うことになっていたのですが、既に説明をしていただきました。先ほどの今後の予定の説明で欠けていた部分が何かあったら補足をお願いいたします。

○事務局（藤間企画調整担当係長） 予定に関しましては、先ほどご説明をさせていただいたとおりでございます。

1点、実際の調査に当たりまして、設問の趣旨を損なわない程度に文言修正を事務局で行わせていただく場合がございますが、そちらにつきましては、ご了解をいただけますようお願いを申し上げます。

私からは以上になります。

○林部会長 ありがとうございます。

3 閉会

林部会長より、第2回市民調査部会の閉会を宣言した。